

シイタケ栽培農福連携支援

静岡・JA三島函南

静岡県のJA三島函南は、障害者の安定的な雇用と賃金向上を目指し、障害者就労継続支援B型事業所の農業参入を支援している。高齢化と施設の老朽化で廃業を決めた牛ノコ農家の施設を活用し、農家と事業所の間で事業承継し、今年度から菌床シイタケの栽培を始めた。同JAは生産技術の指導と販路を確保し、農福連携のモデル事業として支援している。

JA、三島市、福祉事業。同協議会と連携し、業所、生産者で組織し、同県農業振興基金協会のた、三島函南農福連携支援農業者経営能力等向上事業連絡協議会に加入する業を活用した。同市の障害者就労継続支援B型事業所「アールから菌床を購入し、21年1月に初出荷を迎えた。廃業した佐藤文俊さんがJAは、菌床の購入や指導し、栽培補助や収穫、パック詰め作業は同商品パッケージのデザイン、ほぼ販売促進活動を支援事業所の利用者が行う。



事業所職員の指導でシイタケを収穫する利用者

廃業施設を再整備

生産したシイタケはJAを通じて浜松市、東京都を中心に青果市場に、年間約16万個（1が100個）の出荷を予定している。販売利益は利用者への給料に還元し、障害者の工賃を向上させる。同事業所の伊東元生職業指導員は「利用者の工賃向上に期待している。品質の良いシイタケを出荷できるよう、利用者一人丸となって栽培に努めていく」と話す。JAの広瀬和正専務は「農業を基軸に、持続的に誰もが働く共生社会の実現に向け、農福連携の果たす役割は大きい」と期待する。

(静岡・三島函南)